

むだがなければ

ふそく 不足なし

トーマスとケイトは、その週^{しゅう}ずっと、キャンプ^いに行く^い日を^ひ楽しみに^{たの}していました。そして、ついに^{しゅうまつ}週末^{しゅうまつ}になりました。土曜日^{どようび}の朝^{あさはや}早くから、二人^{ふたり}は お父さん^{とう}とお母さん^{かあ}を手^て伝^{つた}って、テント^{てんと}や キャンプ用^{よう}の いすや つり道具^{どうぐ}や お水^{みず}の ボトル^たや、食べ物^{もの}が つまったクーラー^{くわー}を 車^つに 積^つみました。

必要な^{ひつよう} 物^{もの}が すべて そろっている こと^{こと}を もう1度^ど 確認^{かくにん}すると、クリアウォーター湖^こへ 向^むかって 出^{しゅっぱつ}発^{はつ}しました。キャンプ場^{じょう}に 着^つくと、ケイト^{けいと}は お父さん^{とう}が テント^{てんと}を 張^はるのを 手^て伝^{つた}い、トーマス^{とま}は 夕食^{ゆうしょく}を つく^{つく}るのに 必要^{ひつよう}な たきぎ^{たきぎ}を 集^{あつ}めました。

おいしい あみ焼き^やバーガー^{かや}と 皮つき^{かわ}ポテト^かフライ^{わい}の 夕食^{ゆうしょく}を 終^おえると、トーマス^{とま}が キャンプファイヤー^かを 起^おこし、ケイト^{けいと}が マシュマロ^まを ぼう^{さき}の 先^つに 付^つけるのを、お父さん^{とう}が 手^て伝^{つた}ってくれました。トーマス^{とま}も ケイト^{けいと}も、焼きマシュマロ^やを 大^{おお}いに 楽^{たの}しんで 食^たべました。ぼうに さした 3個^こを 食^たべてしまうと、トーマス^{とま}が 言^いいました。「もっと 焼^やこうよ!」



「あと いくつ 食べられるかしら？」 ケイトも
笑いながら 言いました。

「丸々 一ふくろ！」

「あと 一つなら いいわ。その後は、食べてから
考えてみましょうね。」と、お母さんが 言いました。

トーマスは もう1個 マシュマロを 焼いて 食べた後、
もっと ほしがりました。お父さんも お母さんも、
トーマスの 勢いに 笑いながら、食べ過ぎは よくないと
注意しました。

その夜、お父さんと お母さんが 小さかった 時に
キャンプした 時の 話を してくれた 後、トーマスは
ねぶくろの 上に 転がって、かい中電とうで 遊んで
いました。手で 形を 作って かい中電とうで 照らすと、
犬の 形をした かげが できたり、シカの 形をした
かげが できました。ゾウみたいな 形の かげも 作る
ことが できました！



「トーマス、夜ふかしは いけないよ！ 明日は
ながい 1日になるし、最初の夜に電池を使い切り
たくはないからね。ここに いる 間は いつでも
つかえるように しておかないと。」

「はい、お父さん。」 トーマスは そう 返事
しましたが、お父さんと お母さんに 気づかれない
ように、ねぶくろの 中にもぐりこんで 遊び続けて
いました。

次の日の朝、お父さんは トーマスを 魚つりに
連れて行きました。お父さんは トーマスに、
どうやって つり針に エサを 付けるかを 教えて
くれました。トーマスは とても 楽しい 時を
過ごしました。1度は、1本の つり針に 5ひきの
ミミズを 付けてみました。それで 5ひきの 魚が
つれるかと思いきや、1ひきの 魚も つれません
でした。けれども お父さんは 2ひき つったので、
その日の 夕食で 食べました。

夕食が 終わると、ケイトは マシュマロの 入った
ふくろを さがしに 行きました。



「空っぽだわ！」 ケイトが^{こえ}声^あを上げました。

「ああ、ごめん。ゆうべ、ぼくが^{ぜんぶ}全部
食べちゃったんだ。」 トーマスが^き決まり^{わる}悪そうに
言いました。

「それで、ゆうべは おなかが いたかったのか？」と、
お父さんが^{どう}たずねました。

「そうかも・・・。」 トーマスが^{くち}口ごもりました。

日が^ひしずみ、^{よる}夜^だになりました。トーマスが
かい中電^{ちゅうでん}とうを^だ出しに^い行くと・・・。「お父さん！
ぼくの^{ちゅうでん}かい中電^{とう}がつかないよ！」

「本当かい？ ^{いえ}家^でを出る^{まえ}前に、^{あた}新しい^{でん}電池^ちを
入れたばかりなんだが。もしや・・・トーマス、ゆうべ
ねる^{まえ}前に、どのくらい^{ちゅうでん}かい中電^{あそ}とうで^{あそ}遊んで
いたんだい？」

「けっこう おそくまで。」と、トーマスが^い言いました。

「おまえの^{ちゅうでん}かい中電^いとうに^よ入れられる^び予備^のの
電池^{でん}は^ちないんだ。家^{いえ}に^いいたら、お店^{みせ}に^か買いに
行けるが、今回は^{こんかい}この^{ひつよう}キャンプ^{ぶん}に必要な^{ぶん}分^{だけ}しか
も^も持ってこなかったからね。おまえは、『むだが^ななければ
不足^{ふそく}なし』っていう^きことわざを、^き聞いた^{こと}が
あるかい？」



「たぶんね。だけど、それって、どういう ^{い み}意味なの？」

「何かを ^{なに}むだにしたり、^{ひつよう いじょう}必要以上に ^{つか}使ったりすると、いつか、それを ^{むだ}に ^{した} ^{こと}を ^{こうかい}する ^{とき}時が ^く来るとい ^{こと}だよ。それは、^{てんち}電池についてばかりじゃない。最近、何かを ^{さいきん}必要以上に ^{つか}使った ^{とき}時の ^{こと}を ^{おも} ^だ思い出せるかい？」

「1本の ^{ほん}つり針に ^{ぼり}5ひきの ^{ミミズ}をつけた ^{こと}とか？」

^{とう}お父さんは ^{うなず}きました。

「それから、マシュマロを ^{まるまる}丸々 ^{ひと}ひとつくろ ^た食べちゃった ^{こと}も？」

「そうだね。そういった ^{ちい}小さな ^{こと}は、^{たい}大した ^{こと}じゃ ^{ない}ように ^{おも}思えるかも ^しれない。だがね、^{せいしょ}聖書には、^{ちい}小さな ^{こと} ^{ちゅうじつ}事に ^{ひと}忠実な ^{おお}人は、^{こと}大きな ^{こと}事にお ^いても ^{しんらい}信頼できると ^か書かれているんだ。それは、^{ひと}その ^{きんべん}人が ^{しんべん}勤勉で ^{もの}ものを ^{むだ}に ^しないとい ^{こと}を ^{しょうめい}証明しているからだよ。」



「^わ分かったよ。ぼく、^{おお}大きな^{こと}事でも^{しんらい}信頼されるようになり
りたい。むだに して、ごめんなさい。」と、トーマス。

「もちろん、そう になれるさ。さあ、^{いま}今は ^{とう}お父さんの
^{ちゅうでん}かい中電とうを かしてあげよう。」

^{つぎ}次の ^ひ日、トーマスは ^{さかな}魚つりで、^{ひつよう}エサを ^{ぶん}必要な ^{ぶん}分だけ
^つ付けるように ^き気を ^つ付けました。おどろいた ことに、
^{はじ}初めて ^{さかな}魚が ^つつれたので、トーマスは ^{おおよろこ}大喜びです。
トーマスは、^{ひとり}一人で ^{ぜんぶ}全部 ^たマシュマロを ^た食べてしまった
おわびに、その ^{さかな}魚を ケイトに あげる ことに しました。

それからという もの、トーマスは、「むだが なければ、
^ふ不足^{そく}なし」という ことわざに したがる ことに したので
した。

^{せい}聖^く句： ^{ちい}小さい ^{こと}事に ^{ちゅうじつ}忠実な ^{ひと}人は、 ^{おお}大きい ^{こと}事にも ^{ちゅうじつ}忠実で
あり、 ^{ちい}小さい ^{こと}事に ^{ふちゅうじつ}不忠実な ^{ひと}人は、 ^{おお}大きい ^{こと}事にも
^{ふちゅうじつ}不忠実です。 ^{しんかいやくせいしよ}新改訳聖書、^{ふくいんしよ}ルカの 福音書 16:10

文：アリーヤ・スミス 絵：アルビ デザイン：ステファン・ミーラー
出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2015年、ファミリーインターナショナル
“Waste Not, Want Not”--Japanese
関連の読み物はこちら ⇒ 勤勉さ

